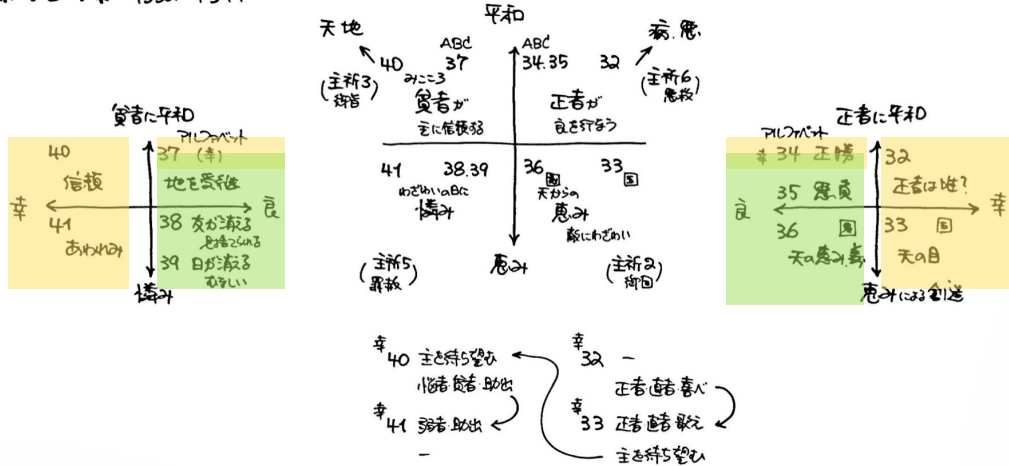




詩篇第1巻第1集 詩篇32-41篇の配列構造

詩篇1巻4集 Ps32-Ps41

2016.10.7



詩篇の第1巻、第4集。詩篇32篇から41篇までの配列を分析しています。

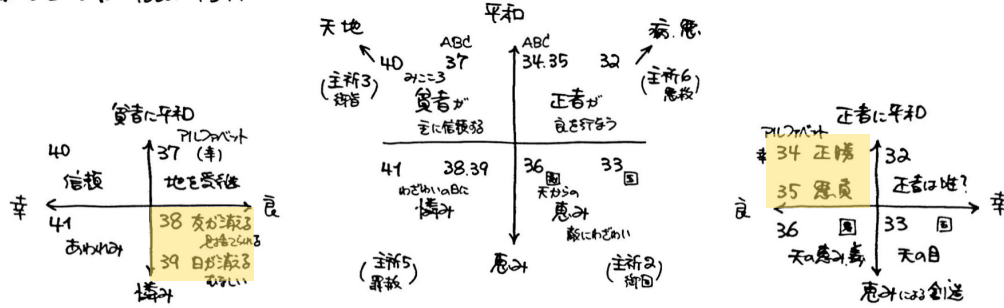
詩篇全体が(1から)4巻と5巻に分かれていて、その第1巻、モーセの律法、王である岩である神様についての段落です。この第1巻の中は4つの詩集になっている。1-11, 12-18, 19-31, 32-41。この32-41の第4集、「幸いな者よ」の詩篇がたくさんある、神様から祝福が与えられているということについての段落です。この段落の中がどうなっているのかを見ます。

32から41まで「幸いなかな、幸いな者よ」と書いてある詩篇は、32, 33, 40, 41。それと34と37も幸いな詩篇と言えます。34には「幸いな者よ」があります。37には「幸いな者よ」という言い方はないのですが、山上の説教で引用されている「地を相続する」ということが何度も出てくる詩篇です。この37篇はそういう意味では隠れ幸いな詩篇です。幸いな者よ、祝福を受ける、地を受け継ぐという詩篇ですので、これも幸いな詩篇と言えると思います。幸い(32)、幸い(33)、幸い(40)、幸い(41)、その真ん中にも幸い(34, 37)があります。

それとトブ。主は良い、もしくは良いもの、善と悪というそのトブが34, 35, 36, 37, 38, 39と真ん中のところにトブの詩篇が集まっています。ですから、(中央表) 幸いな詩篇に囲まれてトブの詩篇がある。(両側表) 幸いな詩篇に囲まれてトブの詩篇がある。この第4集の前半、32-36、37-41。このトブの段落と幸いな者の段落と見ることができると思います。

詩篇1巻4集 Ps32-Ps41

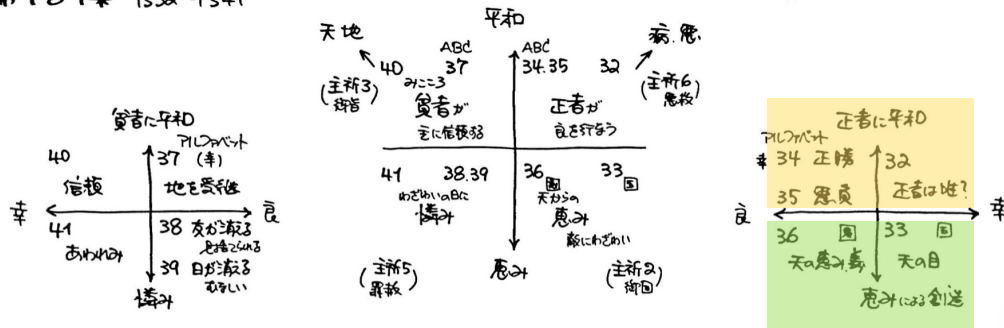
2016.10.7



34と35、38と39が組になっています。34と35は(右側表)正しい者が勝つ、悪者が負ける、正しい者と悪者の戦いなのです。片方は正しい者側、悪者側という感じです。38と39がペアで組になっていると思います。(左側表)38は友が消える、見捨てられる。39は日が消える、むなしい。人生は実にむなしい。見捨てられる、むなしいという共通点があります。その違いがあつてここ(右側表34,35と左側表38,39)がペアになっている段落があるとみます。

詩篇1巻4集 Ps32-Ps41

2016.10.7

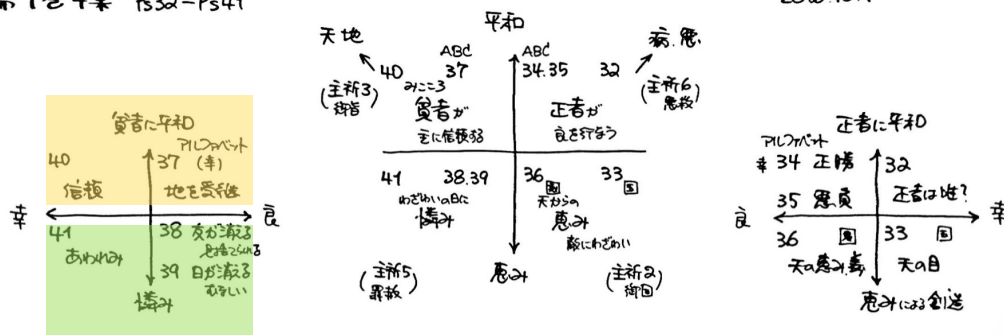


それで、この4つ(中央表の)32と34,35。33と36と見てください。こっち(中央表左側)の分析とこっち(中央表右側)の分析、それを合わせたものです。それで、それぞれを見ます。

32, 34, 35は正しい者と悪者が戦って、正しい者が善を行って悪に対して勝ちます。病に対してもありますけれど、悪に対して勝ちます。33, 36のところは、主の目が注がれる。恵みが天から、義が天から。天から恵みが与えられるというほうですけど、33のほうは、国々と天地創造を思い出す言い方がありません。36のほうは、エデンの園を思い出す言い方が書かれています。それと創造のところ。ですから、国が作られ園が作られる天からの創造、御国が来ますようにというような感じです。

詩篇1巻4集 Ps32-Ps41

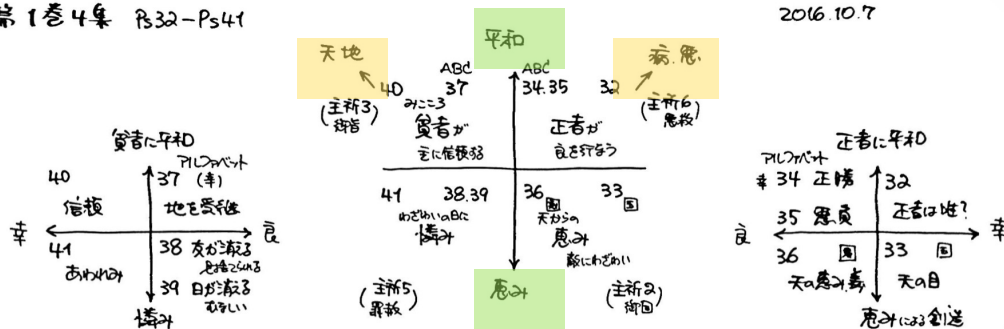
2016.10.7



37, 40の共通点は貧しい者やへりくだる者たち、悩む者たちが信頼するというのが共通点です。38,39と41は、神様が憐れんでくださるということです。病いの時に見捨てられたり、むなしいように見えたりしても絶対に見捨てません。災いの日に神様は憐れみましますということがこの話の大切なところです。

詩篇1巻4集 Ps32-Ps41

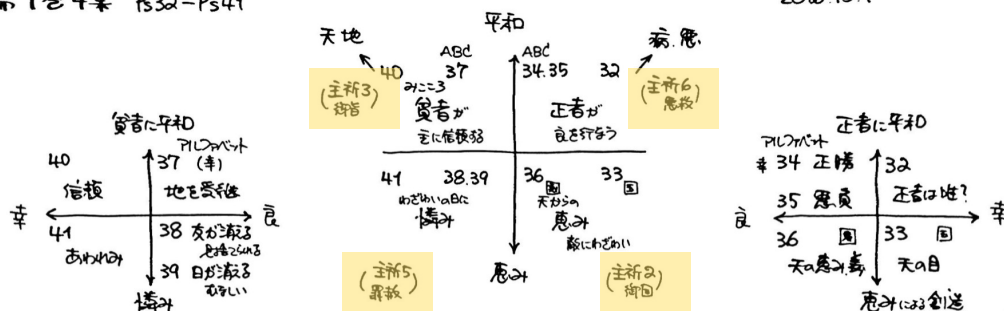
2016.10.7



こちら（中央表右上と左下）は敵がいます。病いや悪者。こちら（中央表右下と左上）は神様との関係が言われているところだと思います。平和（中央表上段）そして恵み（中央表下段）。こちら（中央表上段と）は貧しい者に平和（左側表上段）。正しい者に平和（右側表上段）。へりくだる者に平和。へりくだる者（左側表上段）と正しい者（右側表上段）が同じグループです。恵み（中央表下段）は天から与えられている（右側表下段）。憐れみが与えられている（左側表下段）というこの恵みの段落という4つが構成されているでしょう。

詩篇1巻4集 Ps32-Ps41

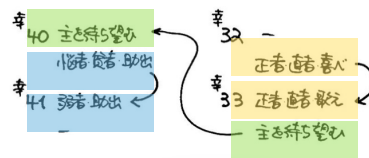
2016.10.7



そして、この4つは、主の祈りを思い出すものです。主の祈りの2番目、御国が来ますように（中央表右下）。そして、（主の祈りの3番目）御心が行われますように（中央表左上）。主に信頼して御心が成されることを待っている、御心が成されますように。

そして、罪が赦される主の祈りの5番目、罪が赦されて憐れまれる（中央表左下）。（主の祈りの6番目の）悪者に対して勝って、救いが与えられる（中央表右上）。6番目、2番目、3番目、5番目。

1番目の御名があがめられることと4番目のパンが与えられることは、ここには書いていないのですけれど、この前の19-31篇（第3集）の（例えば）23篇に、「私たちは乏しいことがない、主は牧者です」（とあります）。岩なる牧者というものは、揺るがない主の御名の栄光ということもありますし、岩から水が出てくるわけですから、命を与える神様だ（と両方の意味があります）、岩なる牧者だ、食べさせてくださる牧者だということです。岩なる牧者という言い方の中に、御名の栄光とパンを与えてくれる、命を与えるということが入っているのかなと思います。ということで、報いの段落の中にその1番目と4番目がなくて、他の4つがこの構成をしているということです。



そして、この段落が一致している、一つの段落だということを表すしるしとして、うまくできていると思いますけれど、32(33と40,41)の外側の幸いな詩篇の4つを取り出して見ると、32篇の終わりと33篇の出だしが同じです。33篇の終わりと40篇の出だしが同じです。40篇の終わりと41篇の出だしが一緒なのです。しりとりみたいになって、この4つが外を囲んでいるということが、この流れでもわかるものだと思います。そして、全体の中で、今度はそれぞれの詩篇がどういう役割をしているのかということを見ることとなりますけれど、この4集はどのような位置づけなのか、第1巻はどのような位置づけなのかということ、この階層を思い出しながら見てください。